

市況等に関する月例報告書（6月分）

（平成27年 6月分）

種 類	市況の概況
（水産物部の動向） 水 産 物 全 般	6月の総入荷量は、冷凍魚と加工水産物がほぼ前年同月並みの入荷を示したが、漁獲不振からびんちょう、よこわなどの天然近海魚の入荷が減少したことにより、前年同月と比べると1%減少したため、取扱金額は4%上回った。
（区分別の動向） 鮮 魚	6月の総入荷量は、前年同月に比べると近海魚が全般に入荷減少したことから2%下回り、平均単価は7%上回った。 品目別には、まぐろの幼魚であるよこわの漁獲不振が続いており価格が43%上回り、かつおは好漁で25%入荷増加したが、よこわ、びんちょうの入荷減少で赤身の需要が高まり価格は16%上回った。また、夏を代表する魚介類では、けんさきいかは長崎産の豊漁が続き入荷が20%上回ったが、するめいかは日本海の漁がまとまらず入荷が29%下回った。梅雨入りとともに、愛媛産、徳島産を主体にはもの入荷が、瀬戸内海産主体にたこの入荷が本格的になってきた。 7月は、祇園祭が始まり、はもの消費がピークを迎えるとともに、7月24日はうなぎを食べる土用の丑の日となるが、今シーズンのしらすうなぎ漁が不漁であったため、うなぎの価格は前年並みの高値が予想される。
冷 凍 魚	6月の冷凍魚の入荷量は、ほぼ前年同月並みとなったが、冷さば、冷さけ等が値下がりしたため、平均単価は9%下回った。 品目別には、冷えびが高値安定で推移したため需要が伸びず入荷の減少が続いている一方で、価格が値下がりしたノルウェー産冷さば、チリ産冷さけが前月に続き消費を伸ばし、冷さばが43%、冷さけが56%と前年同月より入荷増加となっている。 アメリカ産紅さけ漁は事前調査では豊漁とされていたが、漁獲が伸びず漁期も7月中旬で終了するため、昨年より高値推移が予想される。

加 工 水 産 物	6月の加工水産物の総入荷量は、前年同月並みとなったが、原材料価格の高騰などの影響から、平均単価は8%上回った。 品目別には、ちりめんは5月の入荷が少なかったが6月はしらすの漁獲が増加し、入荷が7%上回ったが荷動き良く前年に比べると若干割高となっている。 6月から日本船によるロシア200海里内でのさけ・ます漁が始まったが日露漁業交渉による漁獲割当が前年の約7割減と大幅に削減されたことから、京都で親しまれている「本ちゃん」の紅さけが高値で推移している。 また、なすが出回る7月に、みがきにしんが京都のおばんざいである「にしんなす」に使用されるため、需要が伸びる時期である。
-----------	--

※鮮 魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品目	市況の概要
(鮮魚主要品目の動向)	
ま あ じ	愛媛，兵庫で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１０％上回ったが，大型物が増加したため，価格は５％上回った。
ま い わ し	高知，富山で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１９％下回ったが，荷動きが悪かったため，価格は前年並みとなった。
さ ば	三重，和歌山で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１５％上回ったため，価格は１７％下回った。
す る め い か	石川，新潟で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ２９％下回ったため，価格は２５％上回った。
太 物	総入荷量は前年同月と比べ１０％上回ったが，良品である国内物中心の入荷だったことから，価格は前年並みとなった。
け ん さ き い か	長崎で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ２０％上回ったが，漁獲が増えた５月より手ごろな価格となっており，需要が増加したため，価格は前年並みで推移した。
は も （ 近 海 ）	徳島，愛媛で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月並みとなったが，旺盛な需要だったことから，価格は１４％上回った。

(冷凍魚主要品目の動向)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ４３％上回ったため、価格は１３％下回った。特に、ノルウェー産は入荷量が８５％上回ったため、価格は２８％下回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ５％下回ったが、高値水準で荷動きが悪かったことから、価格は前年並みで推移した。
(加工水産物主要品目の動向)	
塩 さ け 類	入荷量は前年同月並みだったが、チリ産塩銀さけが安値水準だったため、価格は５％下回った。 魚種別では、塩銀さけはチリ産が安値水準だったため、入荷量が１１％上回り、価格は１９％下回った。塩紅さけはロシアとの日露漁業交渉が長引いたことと漁獲枠が削減されたことが影響し、入荷量が８％下回ったため、価格は８％上回った。
身 欠 に し ん	入荷量は前年同月と比べ３％下回ったが、需要が伸びず、価格も３％下回った。